

## 「ビデオの活用（百聞は一見にしかず）」

良い治療は的確な診断から生まれます。黙って座れば医者が治してくれるということはありません。診断は患者さんの提供して下さる情報をもとに考えていきます。

今は情報化時代と言われています。ビデオや写真や録音なども積極的に利用することで、診察室では見ることや聞くことのできない症状を伝えることが出来ます。

咳が止まらないのですと訴えて受診された時に、気管支炎なのか喘息なのか、はたまた百日咳なのかなどと、咳の続く病気を思い浮かべながら診察をします。病気によって咳の様子が異なります。たとえば、百日咳は特徴的な咳が出ますので、その時にうまく咳き込んでくれれば その咳を聞いただけで診断をつけることができます。どんな咳かとお聞きしますが、表現もなかなか難しいものです。そこで登場するのがビデオです。百聞は一見に如かず、咳をしている様子がよく分かり、痛い検査をしなくても治療に結びつけることができます。

食事アレルギーなどで発疹ができた場合も、発疹は1～2時間で消えてしまうことが多く、受診されたときは跡形もないということになります。そこでビデオや写真、今ではスマホのカメラで撮影して、診察の時に見せてもらうと大変参考になります。

この頃よく耳にする睡眠時無呼吸症候群というのは、夜間睡眠中に10秒以上換気ができない状態が繰り返され、そのため何度も目が覚めたり、寝汗をかいたり、日中うとうとしたりするなどの症状が出る病気です。この場合でも、寝ているときの状態をビデオに撮ってきて見せていただくことで、重症度を判断できます。いびきがひどく、時々息が止まるようで心配だと訴えて受診された患者さんがいました。扁桃腺が大きく、そのため睡眠時に閉塞してしまうのではないかと考え、耳鼻科に紹介しました。初めは年齢が小さいので様子を見ましようということになりましたが、お母さんは心配だと再度受診されましたので、寝ている様子をビデオに撮るようお願いしました。ビデオを見ると、いびきの間に胸壁が凹んで息ができていない状態のときがあるのが写っていました。このビデオを耳鼻科の先生に見せるようにアドバイスをしましたところ、即手術となったということでした。

小さいお子さんや赤ちゃんのしぐさが、気になって受診されるときも、ビデオが役に立ちます。例えば歩き方がおかしいと訴えられるので、歩かせてみようとしても、診察室では怖がって、お母さんにしがみついて、歩いてくれません。このような場合もビデオが活躍します。

まさに百聞は一見に如かずです。受診時には、ビデオや写真や録音なども積極的に利用

されることをお勧めします。